

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>現在、就業所属している弊社の立ち位置であるB2G2Cの形態について有名企業の展開事例を用いて理解を深めることができた。本講座を学び、今後の業務展開に活かしていきたい。</p>	
<p>B2BやB2Cなど何となく知っていた言葉を復習する機会になってとても有意義だった。企業のことを知らべると言うとはHPを見ることぐらいしか、自分はわからなかったが、有価証券報告書などを指標にすることもできると言うことを学べて、とても興味深かった。</p>	
<p>人口動態やSDG s等の日本・世界の潮流を読むことが、どこに就職するかの判断材料になるというのは目から鱗でした。また、自分がBtoB企業を全然知らないということが分かりました。企業を選択する幅を広げるためにも色々な企業について有価証券報告書を使った分析法を使って調べようと思いました。</p>	
<p>様々な企業形態について学ぶことが出来た。これまで、あまり企業について調べてこなかったもので、新しく知る知識が多かった。自分がやりたいことを実行できる企業はどのような形態なのかを調べ、研究したい。また、自分の志望する業界のうちどこの企業が研究に対してお金を投資しているのかを調べ、十分な環境で研究・開発が出来る企業を選びたい。有価証券報告書をうまく利用して、企業の性質・特徴を理解したい。</p>	
<p>今回の先生のお話の中で「今後世界は二極化していく」というようなお話がありましたが、過去にあった東西冷戦のような形の対立関係になるのでしょうか西側資本は相次いでロシアから撤退し、経済制裁も重くなっていくことから西側からロシアは切り離され、経済面での冷戦状態に近づいていくと思いますが、またここから新たな展開などありますでしょうか</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>まだ就職のことを考えておらず、企業について調べる良いキッカケになりました。今回の講義で、この会社は実は非上場企業であるなど新しい知識が身についた。</p>	
<p>日本は、韓国よりも人口が多いにも関わらず、修士・博士の人数が少ないという現状に驚いた。多くの企業がグローバルスタンダードにシフトしていった中で、修士卒で悔いのない就職活動を行うためには、企業研究は欠かせないものだと感じた。先生がサントリー時代に課された「今の職場の問題点」についての報告書の内容がとても気になりました。余談になりますが、スポーツの後はスポーツドリンクよりもビールの方が美味しいというのはとても共感できます。</p>	
<p>有価証券報告書を見ることによりその企業の重点を置くところや、今後拡大していきたい事業がわかることを知りました。私が就活をする際は、その企業内におけるトレンドや重きを置いている点を押さえて、自分の向いている会社や職種を見極めたいと思います。</p>	
<p>日本の博士学位取得者数が減少しているのは、専門性を生かした仕事に限られていることが原因であると聞いたことがあります。しかし、今回の講義を受講して、近年企業に求められているのは、博士の学位を取得した人であることが理解できました。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>売上高研究開発費比率、有価証券報告書を読み、傾向をつかむことによって様々な企業の分析を行えることが分かりました。また、就職活動において企業研究するうえでなかなか見ることが少ない指標であるIR、CSRについても再確認することができました。IRはIR情報室や、企業のHPによく記載されています。これは投資家向け広報で、財務状況などを公表しています。もう一つが、CSRで、企業の社会的責任を意味します。企業が利潤追求だけでなく、社会に与える影響に責任を持つ決定や行動をとることを意味しています。これらの指標の見方を勉強してより多角的な視点で企業を見れるようにしていきたいと思いました。また、日本における人口に対する研究者、修士・博士の数が減ってきていることは深刻な課題であると考えました。</p>	
<p>私は現在M2で就職活動は終了しているが、改めてどのような会社があり、どのような事業を行っているか知ることができた。また、有価証券報告書をどのように読めばよいか、分からない部分が多かったので、非常に勉強になった。</p>	
<p>基礎研究が産業化するまで、とても大変であり、それを達成するために様々な方法があることを知り面白いと感じた</p>	
<p>企業には企業から企業へ、企業から消費者へ、企業から公的機関へサービスや製品を提供するパターンがあることがわかりました。</p>	
<p>これから就活するにあたり、自分一人では絶対に気付くことができない情報をいただきとてもためになりました。これからの講義もさまざまな経験を積んだ方の話を聞くのが楽しみです。</p>	
<p>製薬系の企業では、研究開発に多く投資されていることを知ることができた。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>企業の調べ方として、自分はいつもホームページを調べるといことしかできず、具体的に何を見ればいいなどわからなかったが。今回有価証券報告書について学んだことで企業の調べ方を知ることができた、今後企業を調べる際など、活用していく。</p>	
<p>私はこの授業を受けるまで、日本の学位取得者は他の国よりも多いと思っていました。しかし、日本よりも人口の少ない韓国にも学位取得者が少ないことに驚きました。また、研究開発投資比率から企業分析をおこなう重要性にも気づけることが出来てよかったです。私が就活を行う際は有価証券報告書から自分が有利にはたらくような情報を得たいとおもいました。</p>	
<p>未だに就活を本格的に体験したことがなく、自分が就く業界についても詳しく知りませんでした。企業分析をする上で、まず基準を知って行こうと思いました。セブンやユニクロの商品でなど、その商品の大元の会社はどこかを知らなかったので、これから気になったことはすぐに調べて、BtoBの企業を知っていきたいです。</p>	
<p>部屋が明るく文字が見えにくいところがあったので、電気を一部消し、カーテンを閉めて欲しいです。資料があり、見逃しや聞き流ししてしまったところもよく分かりました。自分が知らない企業がいくつもあり、もっと調べないと行けないと思いました。企業を調べる時、知らない企業はどのようにして知ることができるのでしょうか？さまざまな分野で知る人ぞ知る企業はたくさんあると思いますが、全ての企業を知ることは難しいため、自分に知りたい分野や規模の企業の調べる際のコツを教えてくださいたいです。今後就活する際に有価証券などを読み本日学んだことを活かしていきたいと考えました。研究費の半分が人件費とのことでしたが、半導体など分野が変わると機械の価格も変わり比率が変わるのではないのでしょうか？今後も授業を楽しみにしています。</p>	<p>研究開発費に占める人件費の割合は当然ですが業界や個々の企業に依って異なりますが、おおよその目安としてお考え下さい。</p>

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>ギリギリまで履修しようか悩んでいましたが、一回目の講義を受け、会社の仕組みや会社の情報、どこに目をつければ良いか、その会社には何が必要なのかなど、就活の為に役立つ情報が沢山あり履修して正解だったと思いました。特に有価証券報告書の見方は全く知らなかったためここで見方を知れたことは大変勉強になりました。ありがとうございます。</p> <p>そして、1つ質問があるのですが、四季報と有価証券報告書の違いについて自分で調べてもいまいちよく分からなかったのですが、次回以降に軽くでいいので紹介して頂けると幸いです。よろしく願いいたします。</p>	<p>有価証券報告書と四季報を比較するとすぐ判りますが、情報の詳細度です。</p>
<p>日本の博士への進学者は減少傾向にあることは知っていたが、他の先進国と比べてかなりの差があったことに驚いた。これからは日本スタンダードではなくグローバルスタンダードになるということだったが、博士に対して、学費がかかる、就職が遅れるなどのネガティブなイメージを払拭できていない(特に学生の保護者など)ため、障害となるのではないかと考えた。アメリカでは博士の学生に給料のような形でお金を払う仕組みも充実しているが、対して日本ではお金を貰うどころか奨学金という形で借金して学ばなければいけないという現状にあるため、この部分を解決する必要があると考える。</p>	<p>既に解決策が本年度より走り始めています。新大でも90名以上の博士に年間無償の200万円程度の奨学金が支給され始めました。(フェローシップ/次世代)</p>
<p>就職活動への具体的なビジョンが見えていない中で、少しでも情報を得られればという思いで履修した本講義は、私が思っていたよりも多くの情報を得られるという印象を受けました。企業に対する評価の仕方はとても参考になりました。また、企業の資本金を意識したことがなかったので、本講義をきっかけにして、今までに見ていなかった部分で企業を見ることができるようになったのは良かったです。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>大学入学の時は修士に進めば自分の研究開発職に就きたいという目標を達成できると思っていたが、今回の講義の内容を聞くと、博士でないとそもそも雇わない企業もあることを知った。世の中の変化はとても早いため、自分にとって有意な情報を得る力がいかに大切かを感じた。さらにコロナ禍でその変化の速度は増すことになると思う。</p>	
<p>就職活動において、今まで漠然と企業の取り組みや福利厚生等の表面的な事柄をサイトから調べるだけでした。今回の講義を通して、有価証券報告書からその企業における各事業の取り組み及びそれに対する研究費の見方を学ぶことが出来ました。技術職として申し込む身としては、研究費の情報を仕入れることは必要不可欠であるにも関わらず今まで調べてこなかったもので、とても有意義な講義内容でした。</p>	
<p>私が本講義で学んだことは、企業の形態である。企業と聞くと、私はBtoCすなわち、企業が一般消費者向けに行う事業が真っ先に思い浮かぶ。しかし実際には、企業が企業向けに行う事業BtoBや、企業が公的機関向けに行うBtoG、さらにはBtoBtoB、BtoBtoCなどといった形態を取るものもある。具体的な企業名を挙げた説明があったので、非常に内容が理解しやすかった。また、「自身のキャリアは自ら構築するものであり、近未来の状況を観察・分析する必要がある」ということは印象に残っている。私自身、修士課程を修了した後は就職しようと考えており、現在から動向をチェックすることが大切であると感じた。疑問を感じた点は、講義内で紹介のあった企業分析以外にどのようなものがあるのかについて気になった。本講義を通して、自身の抱く企業のイメージと実際の企業との差に気づかされ、企業に対する視野が広がるきっかけとなった。</p>	<p>現在の日本の企業は80%以上がB2Bだと言われています。</p>

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>企業の分析を行うにあたり、有価証券報告書を利用するという考えがこれまでの自分にはないものでした。売上高や従業員数など単純な数字に目を引かれがちですが、細かい情報を自分なりに分析することで自分にとって有益な情報を得られることが分かりました。</p>	
<p>コロナ禍でたくさんの企業の利益が低迷している中で、逆に利益を伸ばした業界(半導体系など)が大変魅力的に見えていたが、有価証券報告書の見方を理解でき、会社のホームページに書かれていないような良くない情報を知る術が身についたので非常に参考になった講義だった。また、私自身経済学に疎く、B2BやB2Cなどの用語について意味を知らなかったが、本講義でそれらについての意味や当てはまる企業などをわかりやすく解説して頂き大変役立った。これらやSDGsは一般常識であり、社会へ出ていくときに知っておかなければいけないので、本講義でいろいろな業界での沢山の用語について触れられることが非常に楽しみである。</p>	
<p>有価証券報告書の存在を今まで知らず、企業研究に役立つ情報を本講義で学べてよかった。マップのグラフ軸を変えると違う見え方がして面白いとの事でしたが、何かおすすしめがあれば教えてください。</p>	<p>同じ業界の企業同士であれば、売上高とROEの比較も面白いかもしれません。</p>
<p>BtoB、BtoC、魔の川など企業で一般的に使われている言葉を知ることができました。また、報告書に書いてある売上高に対してどのくらいの割合を研究開発に投資しているかみることでその企業の方向性がみえてくることもわかりました。私は創生学部1年生のときの必修講義で、ある製薬企業の決算報告書からどの薬の開発に力を入れているのかを調べ、そのサポートシステムの開発体験をしたことがあります。この時にも売上高や開発費に関する項目を重視し、新薬売上高の成長率などを計算しました。これから様々な企業の方がお話ししていただきますが、とても楽しみです。実際にビジネスをされている方の考え方をよく学びたいと思います。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今年から就活が始まりますが、この授業をとってほんとに良かったと思える第1講でした。今回の講義では企業の種類や、研究職について、また有価証券報告書といった就活にとっても有益な情報を知ることが出来ました。様々な企業の人や教授の話をきけるのはとても興味深く、貴重なことであり、今後の講義も楽しみです。また久しぶりの対面ということもあり、コロナ前の大学生活が少しずつ戻ってきてることに嬉しく思います。また素朴な質問ですが、樋口先生はなぜサントリーに入社したのですか？</p>	<p>私が入社したのは40年も前ですので、今と状況は大きく異なります。当時は博士に進学するとほとんどがアカデミア行きでした。でも、アカデミアが私には向いてなさそうだと感じて、コネ等も使いまくってサントリーに拾ってもらいました（笑）。</p>
<p>研究を進めるほど商品化から遠ざかっていく傾向にあるという話を聞いて、大学院の研究でも純粋な心理探求だけでなく、どうすれば製品化できるかという点も意識したいと思った。また、有価証券報告書はこれまで意識したことがなく、これを読めば企業の研究開発投資比率や今後の戦略を知ることができるのは、目から鱗だった。就職活動においては是非活用していきたい。</p>	
<p>企業研究の際に有価証券報告書の情報を調べるのは企業があまり積極的に出さない経営に関する情報が書かれているため有用であるということがとても参考になった。さまざまな企業を分析する際に役立てたい。</p>	
<p>BtoBやBtoCという用語は聞いたことがある程度であったが、その具体的な形態や実際の企業の例について詳しく知ることができた。BtoGに関しては聞いたことがなかったが、生活の基盤となる最も重要なビジネスであると感じた。研究から実際に産業として成立するまでの過程に関しては、容易ではないという想像はしていた。しかし「魔の川」「死の谷」という表現を知って想像がつかないような困難なことで、お金や時間がかかるものなのだと感じた。企業分析というものは今まであまり行ったことがなかった。有価証券報告書についてもほとんど知らなかったが、どこに注目して読むべきか、そこからどんなことがわかるのかについて学ぶことができた。今後の就職活動などに生かしたいと思う。</p>	<p>8/33</p>

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>有価証券報告書の見方を知れてよかった。また、どこを評価すればいいのかもわかってよかった。研究費の企業によっての使い方、人件費の決め方も知れてとても有意義な講義だった。</p>	
<p>ガイダンスがあり、この講義の概要を掴むことができた</p>	
<p>企業分析をする際に研究開発の人件費について調査可能であると知ることができ、勉強になりました。私は博士前期課程に在学していて就活を控えています。興味のある企業について自分なりに調査を進めているものの、どのように企業を選べばいいのか悩んでいました。私は研究職を志望していますが、今までは企業の理念やサービスを調べることにしかできていませんでした。企業のホームページを見ると良い面だけが掲載されていることが多く、客観的な意見は得られません。社外向けの資料として有価証券報告書が存在することを知り、企業がどのくらい研究開発に力を入れているのか客観的な指標を使った企業分析につなげていくことがきそうです。今回の講義で新しい知識を得たように就活が情報戦であるということ再認識できたので、次回以降も自分のキャリアを設計するための学びを深めていきたいと思えます。</p>	
<p>BtoB, BtoC, BtoGこれらの企業の中で最も大きなお金が動く企業間は何の業態になるのでしょうか？特にBtoGで発生するお金のイメージができなかつたので教えてください。</p>	<p>事業規模に依存しますので一概にどのタイプがお金が動くとは言えません。B2Gなら一つの事業で数千億から兆のレベルのお金が動くこともあるでしょうが、トヨタであればB2Cでも数十兆円の事業となります。</p>
<p>今後はただ闇雲に研究するだけでなく、商品を提案・提供して産業として認知してもらうためにどの分野をどこまで研究する必要があるのかを考えなくてはいけないことが分かりました。また、企業の実態を評価する指標として研究開発投資比率は一見難しい指標のように感じましたが、自分で比較的簡単に求められることが分かったので就職活動の際に参考にさせていただきたいと思いました。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義を受講して、「企業」についてのイメージがより明確になった。企業は利益を追求する一方で、社会貢献を第一に活動しなければならない。身の周りを整理して考えてみることで、事業分野に違いはあるものの、エネルギーや食品、物流など、企業はそれぞれの分野で生活をより豊かにしていることを改めて感じる事ができた。また、IRやCSRなどの企業の内部事情を知ることで、それぞれの企業の立ち位置がわかることにとっても興味がわいた。その企業がどの事業でどのくらいの売上を出しているのか、その利益をどのくらい研究費にまわしているのか、研究員は何人いるのかといった情報を読み取って企業分析をすることで、私が就職する際に採用サイトや説明会などの何よりも役に立つと思った。私が希望するIT業界について、それらの情報を調べて分析したいと思う。</p>	
<p>企業に勤めた後のキャリアの一例を樋口特任教授ご自身の経験を踏まえながら説明して下さったので非常に今後の参考になった回であったと思う。また、変化が激しく、その情報が即座に入ってくる現代に対してどのように対応していけば良いか不安であったが、この講義を通してこの点を考えられればと思った。さらに、この先の講義では様々な企業の方の話を知ることができるため、今後の自分のキャリア形成についてもイメージを持てるようにしたいと感じた。私は現段階では修士で卒業することを考えているが、就活の際の企業研究はインターネットで調べる程度であったため、今回の講義で有価証券報告書というものを知ることができ、今後の就職活動に活かせる非常に有意義な時間であったと感じた。この講義の後に気になっている企業について有価証券報告書を見てみたが、意外と研究開発に投資している比率が低く、驚いた。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>自分は今まで企業というものにはっきりとしたイメージなどを考えたことがなく、ぼんやりとしたイメージを持っていました。今回の講義を通してどのような部分を見るとその企業の思惑や力を入れている分野を理解することができました。これからの自分の将来を考えた時の企業の選び方に役立つと思うので、積極的に企業の売上高研究開発費比率などを分析したいです。最初のほうにお話しされていた、企業がグローバルスタンダードになっていて、企業に就職するというより仕事に対する就職が望ましくなっていくというのは、自分の就職という固定観念を大きく変えました。また、このことから今まであまり意識していなかった博士取得も考えていきたいと思います。売上高研究開発費比率でNTTが低いと感じたのですが、これはなぜなのでしょう。NTTといえばアンテナ・通信の研究を積極的に行っている企業のイメージがあり、学会などでもよく見かけます。</p>	<p>だいたい2%強ですよ。この会社はガタイがでかいですから、事業に投入するお金も大きいのだと思います。またNTTはもともとが電電公社ですから、NTT法で基礎研究義務を負っており、通常の企業との比較は気を付ける必要があります。</p>
<p>企業研究の方法や企画書の書き方など、普段の講義では学べないようなことがこれから身に着けられるような気がしました。非常に面白く聞かせていただきました。</p>	
<p>本講義の後、ソフトウェアの請負開発を行う会社の有価証券報告書を読みました。私は経営成績と受注実績に注目しました。市場別の受注高と受注残高、前期実績との増減率が書かれており、幅広い業界から受注を受ける会社でしたが、注力している業界と実際の売上高を確認することができました。これから選考を受ける際の参考としたいと思います。</p>	
<p>有価証券報告書の話は非常に参考になった。今後の就職活動などへ活かしていきたい。</p>	
<p>基礎研究が産業化するまでに、魔の川、死の谷、ダーウィンの海の3つの超えなければいけない試練のようなものがあることを知って勉強になってよかった。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>第一項を聴講して、有価証券報告書が企業分析に役立つことを知った。有価主権報告書には企業の概況や事業や設備の情報が記載されており、研究開発投資比率を調べることで、その企業がどのような感じかがわかることがわかった。また事業の2, 3年をプロットすることでその事業の流れを知ることができるとわかった。有価証券報告書を企業分析などに役立てていきたい。</p>	
<p>今回の授業を受けて、有価証券というものの存在を知ったことが最も心に残った。最近、私の中で就活が重大な問題になってきている。就活をしていくうえで、企業研究をしていくわけであるが、有価証券を用いて企業研究をしていく手もあるということを知った。樋口先生がおっしゃっているように、有価証券をも把握している就活生は少ないと思われるため、自分のアドバンテージにすることができるだろう。今後、気になる企業を見つけ、企業研究する際、有価証券の確認を欠かさずに行っていきたい。また、企画書の書き方もためになった。料理本が企画書と同じ構成をしていることは新しい発見であった。実際に企画書を書く際は、内容のある分かりやすい企画書を心がけたい。樋口先生は、サントリーでキャリアを積んでいくうちに人事の仕事にも携わられたをおっしゃっていたが、就活生に向けて人事の方目線でアドバイスがあれば教えていただきたいと思った。</p>	<p>就職試験とか面接で重要なことは、なぜその企業に就職したいのか、なぜその企業でないとダメなのか、ということが本人の頭の中で考えがしっかりと整理構築されていることです。通り一遍の理由では合格しません。</p>
<p>自分は、学部4年次に就職活動を行っておらずあまり真剣にキャリアについて考えていなかったのがなる話を聞いて良かったと思う。博士まで進むかまだ悩んでいるので授業を通して大手企業で実際に研究職に就かれている方々の話を聞いて参考にしていきたい。</p>	
<p>企業形態にB2B（企業から企業へ）、B2C(企業から消費者へ)、B2G(企業から公的機関へ)があることを知った。自分の興味がある企業がどの形態に属するか調べてみようと思った。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>講義の中で企業の情報を確認する手段として有価証券報告書があることを知ることができたことで今後の就活を多少進めやすくなったと思いました。就活に関して不安は多いですがこの授業を通して多くを解消できたらと思います。</p>	
<p>今日の授業で博士取得者が企業に必要とされるように段々と社会が変化していることがわかりました。博士取得者が増えることでのメリットは、最先端の研究が進むなど、多くあると思います。しかしながら、日本では海外と違い、博士取得者数が減少しています。なぜ、博士取得者数が減少しているのでしょうか。</p>	<p>日本は教育や生活水準が大陸にある他国と比べて島国であり隔離されていることから民族的にもある程度均一です。人材の質も同様です。そのため、就職してからの勉強や教育でみな一定水準の仕事ができるようになりますが、大陸だといろいろな人種が混じり、その文化や能力レベルも異なり、非常にローコンテクストな社会です。そうすると、これまで受けてきた教育や訓練のレベルを何かで証明できないと信用できないわけですね。それで研究するなら「博士」とか、社会的に認められる「資格」のようなものを第一義で評価するようになります。日本はまだこのグローバル化の波に慣れていないのだと思います。</p>
<p>今まで社会や経済に対して全く興味を持たずに生きてきたため、「上場」や「総合商社」など基本的な用語の意味さえも大雑把にしか理解できていませんでした。しかし、修士1年になったということで最近就活に対して興味に向くようになってきました。この講義を通して学ぶのはもちろんのこと、これをきっかけに個人での調べ学習にも力を入れていきたいと思っています。どういう職種に就きたいか、現段階ではほとんど決められていないので、調べ学習によって多くの知識を身に付け、自分に合う職種、自分が就きたい職種を見つけていきたいです。</p>	
<p>友人などから就職活動の話は聞いていたが、今日の講義を聞いて改めて就職活動に対する気が引き締まった。今の世界は情報の伝達がとても速いため、産業業界の変化が著しい。その変化に適応できるように、自分で情報を正しく授受していきたいと強く思った。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>これから就活をして社会で働く上で、必要な思考と行動力について実際に働いている方々の話を聞いて今後に生かしていきたいと思い、受講した。企業の成長は社会貢献との結びつきが強く、消費者のニーズに応えることが重要であると思った。今後、企業研究をするとき、その企業の理念に自分が当てはまるかどうかを重要視し、企業成長の要因を様々な角度で見していきたい</p>	
<p>有価証券報告書を読むことにより企業がどの分野の研究に力をいれているかわかることを知りました。また、R&Dでも企業によって研究だけをするのか、開発まで行うのかが違うことを知り、そのような視点でも企業を見る必要があるのだとわかりました。これから就活で企業分析をする際に役立てたいと考えました。質問理系院卒の総合商社就職は具体的にどのような業務に携わることになるのでしょうか</p>	<p>総合商社が扱う商材は食品とか石油とかといった素材から、電子部材や精密化学品までありとあらゆるものになります。そうすると扱う物の中味が理解できていないととんでもない失敗をやらかす恐れがあります。つまり、扱う商材の中身、電子部品や精密化学品などが理解できないと扱えないのですね。商社の化学品部に配属されると、文系出身者も「危険物取扱主任」の資格をすぐに取りされるそうです。</p>
<p>企業により開発費が異なることが分かった。特に製薬については開発費が多く、常に新しいものを製作する必要があることが分かった。既存の人気ある商品の販売と、新しい商品の開発及び販売のバランスを考える必要があると感じた。</p>	
<p>日本が他の国と比べて修士と博士の学生がとても少ないことに驚いた。また、自分が、就職活動をする際に有価証券報告書を見ることで企業が研究に対してどのくらいお金をかけているのか判別する方法を知ることができてよかったです。</p>	
<p>成績評価に関する質問です。このコメント・感想等は出席として扱うというような旨のことをおっしゃっていましたが、この内容によってシラバスにある50点分が決まるのでしょうか。それともこの提出をすべて完了することによって50点分になるのでしょうか。</p>	<p>後者です。質問・コメントは双方向で講義の質を高めるツールです。</p>
<p>財務分析の方法などを簡単に示された講義で、有価証券報告書を分析すれば簡単に会社の実情を理解できることを学べて良かった</p>	<p>14/33</p>

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>日本における修士や博士の割合は他の先進国と比較してとても低い水準であり、国際競争力の観点からかなり不安のある現状であることが分かった。企業の分類としてBtoCやBtoBは知っていたが、ほかにもBtoGやBtoBtoB、BtoBtoCなど多様な形態があることを理解できた。また闇雲に研究しても製品化には繋がらず、研究と開発の連携の重要性について理解した。企業分析の手法として研究開発投資比率を見るという方法があることを知った。製薬会社やベンチャーでは割合が高く、サービスや流通では割合低いなど業種ごとの傾向を理解した。また有価証券報告書からはどの分野にどの程度研究開発費をかけているかが読み取れ、帝人の例のように一般的な企業イメージと実際に力を入れている分野が必ずしも一致しないことを理解した。企画書においては6W2Hを意識し、人モノカネ効果についての検証が必要だと理解した。</p>	
<p>B2Bについて単語自体は知っていたが、改めてビジネスに向けてのビジネスの重要性について理解を深められた。しかし、就職先の選定は自身の意思に加えて家族の理解が必要であるため、B2B企業の重要性に対して理解を深めて他に向けて発信できるようにする</p>	
<p>有価証券報告書というものの存在を初めて知りました。企業について知る手段が一つ増えたこと、並びに、見るべき情報と、その情報の分析の仕方について少しでも知ることができました。次回以降の、実際に社会で活躍されている方の話を聞けることが大変うれしく思います。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>私は大学院に行くか学部卒で就職するかで悩んで、大学院に進学しました。親には就職の方を勧められていましたが、今日の授業で大学院に進んで良かったなど改めて実感しました。私は私が思っていた以上に無知だったようです。今後の自分のためにも知識をスポンジのように吸収していきたいです。また、自分が就職したい分野の会社の方のお話が聞けるので、今後が楽しみです。以下質問。近年の日本企業が研究開発費を削っている。そのせいで研究力が落ちて他国の技術に追い抜かれている。このままでは技術大国の日本は衰退していく一方なのではないかというようなお話を最近耳にしました。今回講義を聞いて、分野にもよりますが研究開発比率が低いように思えなかったのですが、日本は世界から比べると低下しているのでしょうか？また、上の意見を聞いての先生の意見を教えてください。</p>	<p>日本企業の研究開発費がそれほど潤沢ではないことは事実ですが、それとビジネスがうまく回っていないのとは少し状況が異なります。先端技術の開発力はまだまだ日本は世界の先頭近くを走っていますが、その技術をビジネスにつなげる施策が劣っているのです。例えば、iPhoneは日本製部材がないと一切機能しません。韓国も中国も日本製部材に依存しています。この技術をベースにした最終商品としてのビジネス感覚を磨く必要があります。参考書：技術力で勝る日本が、なぜ事業で負けるのか一画期的な新製品が惨敗する理由（妹尾賢一郎著）</p>
<p>今年度より修士1年になるものです。現時点では、博士進学と修士での就職で迷っています。しかし、企業について何も知らないため、実際に企業の方から話を聞ける本講義を履修しました。第1講では企業ビジネス体系や、企業分析で注目する点などを学んだことで、社会や企業の見方とそれに合わせた自身の身につけるべきスキルについての考えが大きく変化しました。また、企業で求められている力は大学での研究で培われるものと全く異なることはないということも確認できました。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>学部初期から院進を念頭に置いていたため就職活動を行わずにここまで来てしまい、企業についてどのように調べればよいのか、どこを調べればよいのかという事を知りませんでした。そのため、今回の講義はとてもためになりました。有価証券報告書を見ればその会社の様々なことが分かると聞いていましたが、どのように見ればという部分を勉強していませんでした。なので、例に挙げていただいた研究開発費の比率、事業別に投資した資金の推移でその分野を広げるつもりなのか、狭まってしまうのが判断できるという部分が当たり前の事かもしれませんが勉強になりました。質問としましては、上場企業やそれに匹敵する大きな企業でないと有価証券報告書が出ていないため情報収集ができないとおっしゃっていましたが、その他に会社の情報を数値から判断できるような、また客観的に判断できるような情報収集の仕方がその他にあるのか聞きたいと思いました。</p>	<p>残念ながら非上場の中小企業は調べようがありません。もし先輩や知人が就職しておられると、ある程度は判るのですが・・・。</p>
<p>始まってまだ1回目だが、この授業を取って良かったと考えている。なぜならば、存在すらしなかったBtoBの企業や有価証券報告書からその企業がどのくらい研究に力を入れているかといった分析方法を知る事が出来たからだ。今までは有価証券報告書は資本金、従業員数、売り上げの項目しか見ていなかったため、それ以外の情報はホームページでしか収集できず、加えて、詳しく知りたかった研究への力のかけ具合がわからなかった。しかし、今回の講義でネックとなっていた部分が解消されたので紹介された研究開発投資比率を基に企業分析を再度行っていきたいと考える。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>現在に至るまで専攻内の講義しか履修してこなかったため、今セミナーは自分の就活準備のみならず、社会勉強・企業研究という意味においても大変有意義なものであった。特に有価証券報告書については今セミナーではじめて知ったので、早速自分が希望している企業のを検索してみた。すると、企業説明会などでは知ることができない企業の側面がいくつか発見でき興味深いと感じた。今までは純粹な興味によって基礎研究を続けてきたが、今セミナーを通して自分の研究や興味をどのように社会に還元できるのか、といったマクロな視点も大事なのだと感じた。</p>	
<p>&lt;感想&gt;企業研究をするにあたり、有価証券報告書を読むべきであるという話は聞いたことがあったが、実際に開くとどこを読むべきなのかわからず、途中であきらめてしまった経験があった。今回の講義では、有価証券報告書のどこを読むべきなのか具体的に示していただいたことで有益な情報のみを即座に見つけることができるようになった。現在志望している企業の有価証券報告書を読み、企業研究を深めていきたい。また、私たちが普段耳にしないような企業でも優良企業がたくさんあることが分かった。実際に今回の講義で提示していただいた企業について今後調べていきたいと考えている。&lt;質問&gt;・BtoBの優良企業を見つけるためにはどのような方法があるのか教えていただきたいです。・IRの活用法としては、有価証券報告書を読むほかに、業績報告や中期経営計画、業績計画などを参考にするということであっていますでしょうか。</p>	<p>B2B企業は日本企業の80%以上を占めると言われています。しかしながら消費者には直接接点がないためによく判らないですね。まずはご自身の専門分野で使っているが、一般消費財でないもの、あるいは構成されている部品や素材はどこが作っているんだろう？と考えてみると良いと思います。この測定装置はどこが作っているの？乗っている飛行機はボーイングだけれど、部材のカーボン繊維は？電車は日立製作所だけれど、車体のアルミは？どこが作っているの？と常に疑問を持つことだと思います。</p>

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>現在の博士課程状況から研究職というものへの知識、有価証券報告書の見方、企画書の作り方など学ぶことが多かったのですが中でも、これまで私の企業の研究職というものに対して漠然とした捉え方だったと思い知りました。今回のガイダンスでの企業の形態から研究に対してどのように考えられるか、研究からどのように事業へ発展させていくのか、というようなお話は具体性があり、体験を通してのものだったので実感と共に理解することができました。今回で学んだことを今後の自身のキャリアへの向き合い方への参考にしていきます。また、一点質問といたしましては今回お話の中で出てきました上場企業と非上場企業それぞれどのようなメリットがあるのか、またどのようなデメリットがあるのでしょうか？</p>	<p>大きな事業を行う企業は、その元手となるお金（資本）が必要です。そこで株券を発行して一般に買ってもらい、株主から資金を集めて事業を行うわけですね。でも社内に潤沢にもともとお金があれば、わざわざ外から集めなくても事業はできます。</p> <p>資金調達やし易いから上場するわけですが、当然、物言う株主の要求にも答える（例えば配当金を多くしろとか、経営成績が振るわないので社長辞めろとか）必要が出てきますが、非上場だと株主なんか気にせず事業を推進できますね。ただ、オーナーである経営者がちゃんとしてないと、暴走したときに誰も止められずに破綻するといった危険性も増すわけです。</p>
<p>企業分析の仕方などとてもためになるお話ありがとうございました。開発投資額の観点で企業を調べたことがなかったため、とても新鮮でした。また、研究と開発のベクトルの違いの説明の際、“魔の川”というワードが出てきましたが、この魔の川は研究から開発へと発展させることは難しいことを表しているという認識であってますでしょうか。</p>	
<p>今まで自分の将来像として修士まで研究して、企業の研究職につくというプランをイメージしていたが、昨今の情勢などもからみ、日本もグローバルスタンダードに合わせ、企業の研究職は博士を持っている人が増えてきているということが分かった。また、こんなことも知らなかったということに、自分の明らかな情報収集不足を痛感し、この講義を春のうち聞いて、もっと良く調べて考えなくては行かないと、認識する機会に出来て良かったと思った。IR情報の見方を教えて頂いたのを生かし、自分の興味のある分野、企業の研究を進めていきたい。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回講義内で紹介されていた企業のうち、自分が知っていた企業が1割から2割程度しかなかった。先生も講義内でお話しされていたが、就活をする際に企業の情報がないとエントリーすらできないため、アンテナを張って情報を集めることは就活において非常に重要であるということがわかった。また、これまで企業のことを調べる際はその企業のホームページを参照していたが、そこにはその企業にとって都合のいいことしか書いていないということだった。企業の経営状況等の詳細を見るには有価証券報告書を見るといいとのことだったが、それを見るだけで経営状況のみならず、売上額のどの程度の割合を研究費用に充てているかがわかり、そこからどの程度研究に力を入れているかを知れるというのはこれから企業の情報を集める際に非常に役立つ。情報収集の仕方さえわからなかった自分からするととても有意義な講義だった。</p>	
<p>自分が就活する際に、何から始めたらよいか分かっていなかったのですが、企業分析をどのように行ったらよいかを教えて頂き、とても参考になりました。</p>	
<p>企業研究の際のIRの読み方などのお話がとても参考になりました。学部生時代に知っておきたかったと思いました。今まで「博士は就職しにくい」という固定観念がありましたが、これからは逆に企業からの博士の需要が上がっていくことがわかりました。研究開発の職に就いても、企業によっては多くの部署を異動することになると初めて知りました。自分がしたいことと企業の傾向を照らし合わせて企業を選ぶことが大切だと思いました。質問なのですが、B2B企業とB2C企業では研究開発投資比率の傾向に違いはありますか？</p>	<p>B2BとB2Cで研究開発投資比率が異なるか？というのは一概には言えないと思います。紹介したようにB2Cである製薬、化粧品、食品でも同じ生命系の企業業界でも大きく異なりますね。研究そのものを商品にしているか（製薬）、研究よりも感性とマーケティングで勝負しているか（食品）で違ってきます。</p>

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>非常に興味深い講義、ありがとうございました。有価証券報告書を用いた企業の分析方法は初見でしたので、ためになりました。企業のHPには企業の都合の良い内容しか書いていないと、先生がおっしゃられていたことが印象に残っております。私は、学部4年生の時には就活を行っていないので、次が初めての就活になりますが、悔いの残らない選択ができるよう、取り組んでいこうと思いました。</p>	
<p>本日は、貴重なお話ありがとうございました。就活の際に自分がどういうことをやりたくて、それを実現させるためには、企業や会社のどこをみたら良いのかなど、とても勉強になりました。B2BやB2CB2B2Cという言葉は、初めて聞く言葉でした。有価証券という存在も知らず、情報を収集する一つの手段としてこういったものを活用し、情報をどんどんインプットしていく必要があると改めて思いました。</p>	
<p>企業の従業員数と研究開発投資比率対売上高をプロットすることで研究に対する依存度がわかったり、有価証券報告書を見ることでその企業の重きを置いている事業を知ることができることがわかった。自分が企業を研究する上で役立てていきたいと思う。</p>	
<p>有価証券報告書の見方についてのお話が非常にためになりました。その企業がどんな分野に注力しているのか、売上高に対して、研究開発費はどのくらいの割合を占めているのかなど、企業の特徴を知るのに大変有用なものであることが分かりました。今後企業分析を行う際には、有価証券報告書を活用しようと思います。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>研究職についてとしても研究だけをするのではなく、その後には色々な道があるというお話を伺い、私自身の就職についての概念が変わりました。今までは、研究職や製造業に関わりたいと考えていたのですが、今行っている勉強や研究を生かすことができる就職先だけではなく、もっと幅広く考えたいと思いました。今大学で行っている研究も好きですが、変化し続けている現代において、10年後20年後の将来を見据え、知識を増やし、就職先を考えたいと思います。質問ですが、就職先を選ぶときに一番大事にしていることは何でしたか？私が最近よく考えることなのですが、人生とは、何を基準として幸せと言えるのでしょうか？</p>	<p>哲学的なご質問で答えに窮します（笑）、が、ご自身がやりたいことがやれて、結果が出て、あるいは結果がなくても、やりがいを見つけて満足できればいいのではないのでしょうか。</p>
<p>企業の研究・開発では大学での研究とは異なる部分として、ただ優れた技術や素材等を作り出すだけでなく、事業化、産業化というステップを経て製品やサービスを生み出し、利益を得る必要があるという点について改めて認識できた。産業化に至るまでには研究開発のみならず、マーケティング戦略が非常に重要であるため、就職活動をする視点では志望業種以外の部分も含めてあらゆる観点で企業の研究を行う必要があると思った。企業では部門によって仕事が分離されているという認識でいたが、タスク冗長やキャリア冗長という手法をとって知識や価値観を共有する仕組みがあるという点は新たな気付きであった。またこの点も企業ごとに特徴が分かれる部分であるため、自分自身の働きたい形を考えるとともに、各企業の特徴をおさえることで良いマッチングに繋がりたいと思った。</p>	
<p>企業の在り方や企業が行う経営の能力開発、そして研究に対する姿勢について知ることができた。私は教員志望なのだが、企業に務める機会がないまま教員になってしまうと、学校運営や問題発生対策などにおいて社会の基本に無知のまま社会人になってしまう。だから、たくさんの企業の方の話を伺える機会というのを大事に今後も受講を継続していきたい。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今日の講義では、就職活動に活かせる情報をたくさん得ることができ、非常に勉強になりました。特に、有価証券報告書の見方を知ることができたため、この情報を今後の面接でのアピールに活かしていきたいです。</p>	
<p>講義ありがとうございました。サントリー在籍時の異動回数であったり、娘さんの在籍する企業における理系出身者の数など実際の体験しないとわからないことをいくつか聞いたのが1つの収穫だったと感じています。プライベートな質問になってしまうのですが、樋口先生はサントリーに勤めている間、結婚した後はほとんど単身赴任をされていたのでしょうか。仮に夫婦共働きの場合、私は自分のキャリアアップと家族と一緒に暮らす事（異動しないこと）の両立は非常に難しいと考えており、その問題に対し1つの解決策として、相手の異動先でも勤務が出来るように資格取得等によって手に職をつけることがあると考えています。そこで、先生に実情はどうか、また先生が考える両立のための解決案などをお聞きしたいです。</p>	<p>難しいですね、私自身は皆さんたちよりもっと古い時代を生きてきたわけで、参考になるようなことを言えないのですが、サントリー時代は半分くらい単身です。家内は娘が生まれた時点で退職し、その後は時間のある時に大学の職員等をやっていました。</p> <p>皆さん方の時代は、少なくとも大きな企業は産休育休の制度も充実し、また既婚者の転勤に関してもかなり配慮をしてくれるようになってきています。またこのコロナでリモートワークが一気に発展したことも追い風ですね。これらをうまく使うことだと思います。</p>
<p>有価証券報告書というものを今回初めて知った。企業研究をする際、お金の話は難しく、ホームページに載せられている数字の大きさしか見ていなかった。しかし、どこの分野にどの程度のお金を費やしているのかを知ることで、その企業の注力する部分が見えてきて面白く思えた。学部4年生で今後を考えた時、やりたいこともなく、とりあえず理系学部は院進だと、先生に言われるがまま大学院に進学した。流れに身を任せ、時代の変化に追いつくことだけでも精一杯に感じてしまう。激動な世界を生きていくために、世の中の動きや、変化に対応する企業の動向に目を向ける癖を身につけたい。そして、自分のキャリア構築について具体的に描けるよう社会の大人の話をお聞きしたい。</p>	
<p>本日の講義ですが、体調不良で欠席してしまいました。授業前にご連絡できず申し訳ありませんでした。以後このようなことがないように心がけます。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>IRやCSR、有価証券報告書など、聞いたことも見たこともあるが、見方など詳しい事は知らなかったの で、勉強になった。色々な観点から有価証券報告書 を見る事で、様々な情報を得られるようになりた い。</p>	
<p>企業を探す際には、収益に対して研究費をどれくら いかけているかということ参考にしてしようと思う。 また、B to B,B to Cなど企業の形態についても調べ ておくべきだと思った。</p>	
<p>第1回の講義では有価証券報告書から研究開発動向 を調べられることが勉強になった。試しに新潟県に 本社がある上場企業4社の最新の有価証券報告書か ら研究開発投資比率と従業員数をそれぞれ調べると、 ツインバード工業株式会社（4%・302人）、ス ノーピーク（0.4%・623人）、株式会社ポラテクノ （2.7%・4261人）、株式会社キタック（0.6%・188 人）となった。これらの数字をスライド49ページの 図にプロットすると、業界ごとの分布にほぼ一致す ることが確認できた。自分で研究開発動向を調べた 感想としては、調べた県内企業は講義で紹介された 第一三共などの県外企業よりも社員数が少なく、少 人数で研究開発を行っている可能性があることが意 外だった。最初は研究開発部門で採用されなくて も、人事異動により研究開発に携わる可能性がある ことを考えると研究開発投資比率をチェックするこ とは重要であることが分かった。</p>	<p>いろいろ調べると楽しいでしょ？ 漠然と見ているより その企業のことが鮮明に見えてくるようです。</p>
<p>公表している企業の場合、有価証券報告書を読んで 分析することが、その企業のことを知るために必須 であるということがよく分かった。</p>	
<p>企画書でのプレゼン面白そうだなと思いました。こ れからの他の講師の方の講義も楽しみです。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>ワクチン接種のために帰省しており、そのため、今回はオンラインで参加させていただきました。次回以降、対面で参加させていただきます。企業ごとに研究開発投資比率が全く異なること、有価証券報告書を用いることで、詳細な企業分析を行うことができると学びました。BtoB、BtoCなど企業の種類や、IR、CSRといった用語についても知ることができました。また、総合商社でも理系人材を多く採用していると聞き、驚きました。今後、様々な企業の方からお話を伺い、自身のキャリアマネジメントに活かしていきたいです。</p>	
<p>数々の質問をしてしまい申し訳ありませんでした。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。</p>	
<p>様々な企業のジャンルや形態が理解出来て非常に有意義だった。就活をする上で職種の選び方等を参考にしていきたい。</p>	
<p>BtoB企業に関するスライドについて、自身が農学部ということもあり食品を扱う事業については社名を見たことがあったが、それ以外の分野のBtoB企業に関して見たことのない企業名が多かった。自分の見ていた・調べていた企業というのは氷山の一角に過ぎないのだなと気付かされた。</p>	
<p>キャリアについて、理系出身だからといって研究一辺倒ではないことがわかった。料理本が企画書の模範という話しは興味深かった。近いうちに書店で見たい。</p>	
<p>私は森林生態系などの分野について学んでいます。この分野の就職先となると、大体が公務員、民間企業だと造園や住宅企業が多いです。なので今までそれ以外の企業について調べるのがなかったため、今回の第1講は社会の潮流を知るという意味でも興味深かったです。また、存在を知ってはいましたが読んだことのなかった「サピエンス全史」、面白そうだったので読んでみようと思います。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>有価証券報告書の存在を初めて知った。また、そのデータから企業を見定める方法を知ることができたのは、今後の就職活動に役立つと思う。</p>	
<p>少しずつインターンシップに向けて企業分析、自己分析を始めています。企業分析では事業内容や求める人物像などを調べていましたが、新たに研究開発投資比率を調べるという観点が持てたため、今回の講義はとても有意義なものだったと感じています。また、有価証券報告書も最初に見た際にはどこを確認すべきなのか分からず、情報の取捨選択ができませんでした。そのため、今回どこを見ればいいのか具体的に提示して頂けたのがとてもありがたかったです。</p>	
<p>修士一年生として、今は企業の中でますます博士の採用を重?することを知っていて、今までの状況と大きく変わって、博士がまだ足りない。インターネットやデジタルなどの普及に伴い、日本の就職状況も以前より大きく変化した。そして、グローバル化の加速に従って、博士の需要はますます大きくなる。今日は企業の??を理解した。また、企業の研究開発への投資、研究開発費、投資割合、売上高の関係は、業界ごとに異なる。企業を研究する方法はいろいろある。業界によって研究への依存度も異なり、企業が採用したい研究者も異なる。指標を変えることで、面白い面が見られるかもしれない。</p>	
<p>主要国の中で日本だけが博士取得者が減っている状況なので、改善していく必要があると思った。ただ、博士課程まで進むと就職先がない、就職する時の年齢が高くなってしまうなど、博士課程に進学した場合のマイナスなことしか聞いたことがなかったので、自分は博士課程まで行きたい気持ちはあるがどうすべきか迷う気持ちがある。また、有価証券報告書を用いた企業分析の話が面白かった。企業分析はしたことがなかったので、今後してみようと思う。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>研究分野に携わりたいと考えていたのですが、企業によってどこまで研究事業を求めているのか同じ分野でもかなり異なっていることは知りませんでした。企業調べをするときに、その辺も重視しながら行っていきたいと思いました。</p>	
<p>企業の情報をホームページなどで調べるだけでなく、自発的に企業を分析できる方法があることを学びました。情報に惑わされるのではなく、有価証券報告書などを参考にどういう企業が見極めることが大切だと分かりました。自分の気になっている企業の分析が深くできそうで良かったです。売上などを見ても金額が大きすぎて良いのか悪いのか判断が付きづらいのですが、どうしたらいいのでしょうか？</p>	<p>企業の良し悪しは売上だけではわかりませんし、財務諸表を見れば業績は判りますが、社風までは判りません。自分が就職した会社が儲かっている、文化が最悪なんてこともあります。一つの側面として捉えてください。また、インターンシップに行くとか、社員のひとと話をするとかでおおよその文化も判ります。</p>
<p>自分が学んでいる分野に就職することしか考えていなかったが、修士2年間で学ぶ論理的思考などを他分野に活かすというような、広い視野を持ってキャリアを考えることが可能であることを知った。今回の講義で疑問に思ったこととして、①B2BやB2Cなどの企業紹介の際に、初耳の企業がいくつかあったが、比較的知名度の低い企業をどのようにして知るのが気になった。これまで知るきっかけがなかった企業に対してどのようなきっかけで知れるか気になった。②キャリア冗長によって研究部門からマーケティング部門に行った後は再び研究部門に戻るのか、マーケティング部門に留まるのか気になった。</p>	<p>①皆さんがよく知っている企業はB2Cが大ですが、その商品の中味や原料、あるいは包材はどこが作っているか、ペットボトルの原料は？iPhoneの表面フィルムは？マイクロモーターは？電子チップはどこが作っているの？乗っている電車はどこが作っている？などと考えるといろんな企業が浮かんでくると思います。 ②これもいろいろです。元に戻ることもあれば、行った先で活躍することもある。最近のまともな企業は本人の意向も異動に反映してくれるようになってきています。</p>
<p>結論としては、企業研究のイメージが変わった。私は学部生の時から大学院進学を考えていたので、企業について詳細に調べたことはなかった。今回の講義ではHP等では得られない情報の取得の仕方等調べたため大変参考になった。</p>	
<p>アルバイト先の業務の中でよく目にしていた有価証券報告書がどのような意味を持っていたのかを今日理解することができ、大変有意義な時間であった。また、既に自分の視野が狭まっていたことに気付かされた。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>企業選びにおいて、なんとなくで選ぶのではなく、自己分析、企業選択のコツ、および世の中の情報に対する関心が必要不可欠であると感じた。また、企業においてもB2BやB2Cなどといった特徴があることも興味深く、これからのキャリア選択において重要な項目であると考えている。今後、企業選択に対する知識、世の中にあふれる情報を習得し、そして、研究開発投資率を用いた企業分析と自己分析も活用していきたい。</p>	
<p>今後様々な企業の最前線で働いている方々の話が聞けると思うとワクワクしています。0から1を作るといのは企業においては必須であり、柔軟な思考が求められると思うので、最終課題に向け頑張りたいです。</p>	
<p>企業の種類にはBtoB,BtoC,BtoGなど様々であることを学びました。また、BtoBtoB,BtoBtoCのように細かく分類されることも学びました。私は研究職か総合職か決めかねていますが、今回の授業で学んだ企業研究を行い、後悔しない進路に進みたいです。</p>	
<p>今回の講義では普通に過ごしては手に入らない情報を数多く知ることができた。有価証券報告書や、普段私が接することのない、B2B1やB2Gの企業は今後就活を進めるにあたって有益な情報だった。また、JOB型の雇用が普及しつつあることや、研究職では博士を必要とする企業が増えてきているなど近年の採用の傾向を初めて知り、常に情報の更新を行う重要性を確認できた。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>本日の講義で最も私の中で印象に残ったのは、「企業を知らなければ、まずそこに就職しようと思わない」という言葉です。今現在就職活動を始めようとしているところですが、他の分野（自分が今まで興味を持たなかった・専門外の分野）の企業・仕事を良く調べ切れていないにもかかわらず、自分の中の将来の選択肢を狭めすぎていたことに気づかされました。後で後悔しないよう、どんな仕事があるのか、どんな企業があるのか、その企業は他の企業とどこが違うのか、しっかり下調べをしてから企業にコンタクトをとっていきようにしようと思いました。また、企業研究をどのように進めて行けばよいか、どこを見ればよいかについて不安を感じていたため、本日教えて頂けて大変参考になりました。ここで一つ質問なのですが、技術者・研究者（社会人）としてのスキルが大切になってくるとありましたが、スキルを上げるために、学生のうちにできることは何でしょうか？</p>	<p>研究は専門スキルはこれから研究室で獲得できます。重要なのはその知識やスキルを、専門から少し離れた分野でも同様に発揮、あるいは発揮できるように自身をシフトできるかです。応用力ですね。それがポータブルスキル・・・コミュニカ、リーダーシップ、プレゼン力といったものになります。それと専門外の知識・・・リベラルアーツと言われるものです。専門外も含めていろんな分野の書籍を読んだりして人間の幅を広げて言ってください。</p>
<p>M1の四月ではあるがもう就活は始まっていると考える。そこでの企業研究は大事であるが表面だけの数字も然り、内面の数字をもっと考えなければならないと思った。</p>	
<p>私は今、大学院で土木を学んでいます。その中で私は鉄道工学を研究していますが、その分野がBtoGの事業を行う企業であることを初めて知りました。自身の研究分野が直接将来につながるとは言えませんが、それが世の中でどのような位置づけにあるかを理解でき、自分が就くであろう仕事のビジョンがより明確になりました。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>第1回講義ありがとうございました。大変有意義な90分を過ごすことができました。特に、Ph.Dの必要性和有価証券報告書の分析方法については、これからの就活、およびキャリア選択の上で役に立つ視点を身につけることができました。例えば、自分の専門と強く関連のあるある建設業界において、自分の興味のある企業や業種を今一度洗い出し、有価証券報告書を分析することで、その企業がどの分野やサービスに力を入れようとしているのかを把握し、自己分析の結果と照らし合わせることで、より自分に合った仕事に就職したり、他の就活生との差別化を図ったりするなどです。また、場合によっては、博士後期課程への進学も選択肢と考えることの必要性も感じました。今日の講義の内容を今後役に立てようと思います。</p>	
<p>B2B、B2Cへの理解はある程度あったが、B2Gは初めて聞いたため企業のビジネス体系についての理解を一つ深めることができた。さらに、B2B企業においても一般への周知拡大のために広告を打ったり、一般向けの商品の開発・販売するなど、企業のブランド化の確立・拡大のため多くの工夫を行っていることも学ぶこともできたため非常に有意義なものであった。また、今までも自らで企業研究をする機会があったが、本講義で説明のあった、研究費にかかる割合で企業をゾーニングする方法で企業研究を行ったことはなかったため、今後の企業研究で活かしていきたいと感じた。来週以降、企業の第一線で活躍してきた方々の非常にリアルな話が聞けることを楽しみにしています。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>現在、コロナ等によって非常に変化しやすい社会の中で、博士によるキャリアも必要になる可能性があることがわかりました。博士によるキャリアを考える上で、各企業において、研究・開発がどれだけ重要視されているかを分析しなければならないことがわかります。そのため、有価証券報告書を読んで、企業の分析を行うことが非常に参考になりました。自分が気になる企業を自分で調べ、企業の方針を把握することが重要であるように感じました。研究開発投資率と従業員数をプロットすると、企業の業種や取り扱うもの等によって、大きく違いが出るのがわかり、企業それぞれに異なる方針があることを改めて理解しました。これからの授業を、自身のキャリア形成に役立てようと思います。</p>	
<p>有価証券報告書の見方を初めて知った。売上の半分は人件費に充てられるなどの新たな知識も得られた。自分の気になる企業の有価証券報告書を見てみようと思う。</p>	
<p>これまで私が行っていた企業研究は、企業のホームページを見ることが主な手段であった。しかし、今回の講義を通して、有価証券報告書を見ることで、企業の良いところだけではない、より詳細な情報を得ることができると知った。この報告書の中から、自分なりの企業の判断基準となるものを見つけていき、就職活動の参考にしたい。また、この世の中には、自分の知らない良い企業がまだまだあるということを、改めて分かった。そのため、企業研究の際には、自分で自分の選択肢を狭め、まだ知らない企業との出会いをなくすことのないように、あらゆる可能性を考えていきたいと強く思った。</p>	
<p>自分の知らない大企業が多くあることを知れたので、自分が就職したい分野の企業をしっかり調べるべきだと思いました。また、企業を調べる際には、本日教わったことを参考にしたいと思います。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>自分の今後のキャリアへの考え方を知る第一歩としてとても有意義な時間であった。自分は今就活中であるが、自分の中で博士課程まで進む選択肢はなかったが、今後はそれも検討した上で自分の進路について悩みたいと考えました。</p>	
<p>就活についてわからないことが多く、何から始めていいのかわかりませんでした。第一講を通してやるべきことが少しわかってきました。</p>	
<p>修士を卒業した際の出口戦略を考えなければならぬきっかけとなった。企業研究の方法の一つを知ることができたため、今後自分で調べ、自身の進路を考えたい。修士での研究活動などを通して得られる知識やスキルと、企業が力を入れている事業内容をいかにマッチさせるかが重要だと感じた。</p>	
<p>今回の講義では企業調べの参考になる研究費の見方などを学べた。今回講義で教えてもらったプロット法を元に企業調べをして自分に合う企業の特徴を深掘りしていきたいと思う。</p>	
<p>これから就活を、始めようと思っていますが、企業について、どのようなことを調べたらいいのかなど基本的なことを知らないのではとてもためになる講義だと感じました。これから頑張ります。</p>	
<p>非上場でも名前が知れているような大きな会社があることをしり、就職活動の際に役立てたいと思った。授業後に研究開発費率と従業員数でグラフを作成してみたが、ヤマダホールディングスの比率が0.01%ほどであり、自社標品の名前を聞かないのはそのような理由もあるのかなと思いました。比較はしていませんが、同系統の会社でアイリスオーヤマがありますが、そこは自社ブランドをよく聞くので、比率はヤマダよりは大きくなるのかなと思いました。</p>	
<p>企業の見方の概要が分かり大変勉強になりました。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>非常にためになる講義だと思いました、この講義を就活に活かしていきたいです。</p>	
<p>大学院に進学することを決めていたため、企業分析はこれまであまり行っていませんでしたが、有価証券報告書によって企業がどれだけ研究開発に力を入れているかが分かるということはとても参考になりました。研究開発以外にも企業分析につながる情報となる報告書は、有価証券報告書以外にありますか。補足ですが、今日のE260講義室は暖房が効いておらずとても寒かったので、室内温度を考慮されながらご講義いただけると幸いです。</p>	<p>有価証券報告書は上場企業に提出が義務付けられていますので、有用です。企業によっては「統合報告書」のような形で出しているところもあります。またCSR報告書や環境報告書を出しているところもありますし、技術中心企業であれば、知的財産報告書を出しているところもあります。調べてみてください。</p> <p>部屋の温度ですか？最初におられた方に聞いたのですが、特に問題ないとのことだったので触りませんでした。今後聞いてみます。</p>
<p>企業は経営を維持するために利益を出すものというイメージがありましたが、今回の講義で考えを改めました。私自身は今年から就活を始めようと考えていますが、企業の指標（研究開発費率など）は、1つの指標だけでなく様々な視点から情報を集めていくよう心がけていきたいです。</p>	
<p>企業と研究の関わり方大変参考になりました</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>これまではアカデミアの研究職のみを目指してきており、就職活動などを全くしてこなかったため、本日の内容の全てが新鮮で面白かった。第1講だけで、外の世界を知ると言うことが自分の世界を広げるための大きなきっかけになると感じた。最近友人が亡くなったため、これまでよりも自分の人生についてよく考えるようになり、今後の進路はアカデミアに限らないのではないかと思い始めていたところで、本講義の存在は大きいと感じている。そのため、これから本格的に自分のキャリア形成について見直しながら本講義でたくさんのお話を吸収し、希望する進路を歩めるように自身の成長に繋げたい。</p>	
<p>企業分析はこれまでやってきたことがなかったので、融合領域を学んでいく上で現在の企業への理解がいかに足りていないか実感することが出来ました。企画書について、企業と大学と大きくくりでは同じ研究職であるのにも関わらず書き方に違いがあることに違和感がありました。この授業を通して自分の納得のいく企画書を作成できたと思います。</p>	
<p>SDGsを疑う、料理テキストがよい企画書について、特に学びがありました。B to B、B to Gのところのスライドの資本金及び売上の単位（円）、従業員数の単位（人）がなく、わかりずらかったです。「古河気合筋」は、知りませんでした。ありがとうございました。</p>	
<p>第1講を受けまして、自分のキャリアパスを考える際の企業分析の重要性を知ることができました。恥ずかしながら初めて有価証券報告書という存在を知ったのですが、非上場企業やベンチャー企業といった情報開示の義務のない企業を分析したい場合はどういった方法がありますか？</p>	<p>これは難しいです。その会社に人に聞く、ビジネス上関係している他社に聞く、くらいしか手がありません。</p>

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>序盤では、キャリア選択のために必須となる現在の最近の世界の情勢、世界の中での日本の博士の情勢について、様々な情報がまとめてあり、非常にためになりました。特に、主要国では日本のみが博士人材が減少しているということを聞きました。つまり、日本の今後を担う科学者が減少するということであり、将来の日本の科学力に対し危機感を持ちました。また、SDGsについて、世間一般では素晴らしい目標で目指すべきと言われていたが、本当にそうだろうかという視点もってほしい、例えば、SDGsをやることで得する企業や会社があるという視点もあるという話は、独自の視点と感非常に興味深かったです。後半では、有価証券報告書の見方を習いました。企業が何に力を入れているのかが分かるということは、今後就活をする上で重要だと思いました。また、その企業がどれだけ研究に力を入れているかが、お金という数字で分かるというのは興味ぶかかったです。</p>	
<p>本講義を履修し、新たな知見として得られたものは大きく2つあります。1つ目は企業における研究の在り方についてです。特に基礎研究が産業化されるまでにどのようなプロセスで社会にアウトプットさせるのか学べたのは大変有意義でした。2つ目は企画書の書き方についてです。企画書を書いたことがなかったもので、学術論文との構成の違いについて学ぶことができたのは大変興味深かったです。ただ個人的には学術論文も演繹的な記述を行いますが、AbstractとIntroductionでどれだけ他の読み手を惹きつけるかを考えている私からすると共通する部分は意外と多いのではないかと考えております。今後はオムニバスで他の講師の方の授業が始まりますが、どんな新たな知見が得られるかとても楽しみです。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>修士課程での就活では希望職種, 業界は決まっていたものの, 企業を客観的に比較することができず, 結局, 企業の採用特設サイトから与えられるイメージで志望先を決めてしまっていた。本講義で示された, "有価証券報告書を用いた「研究開発人件費」の比較"のような, 自身の具体的な希望に基づいた評価軸を第一につくるべきだと感じた。</p>	
<p>実際に産業界の最前線でご活躍されている企業の方々に、企画書を見て頂けるチャンスを得られるとこのことで企画書作成課題に取り組むのが楽しみです。就職活動を経て博士後期課程へ進学しましたが、企業へエントリーシートと共に提出する研究概要や研究費助成等の申請書とは似て非なるものとして良い経験になると期待させていただいています。</p>	
<p>今後のセミナーの内容がよくわかりました。また、研究の位置づけと最終的な産業の関係が理解できました。いわれるとわかりましたが、自分でそのところまでは至らなかったと思うので、聞いて良かったです。</p>	
<p>この春から博士後期課程に進学し、修了後はアカデミアではなく企業に就職したいと考えており、博士取得後は就職先は研究内容に近い企業、仕事は研究一筋の未来になるのかと少し不安に思っていた。第1講を聴講しコンサル企業やマネジメント、ヒューマンリソース等の様々な道があることを知り少し安心した。またこれまで、有価証券報告書は名前を聞いたことがあるだけで、見たことなかったが、ほんの一部だが見方を知れて、その企業がどんな企業なのか分析できる一つの手法を得ることができたのは、今後に大いに活かせる。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>博士課程に進学したものの、キャリアについては「アカデミアに行きたいけど狭き門だよなあ」と考えていました。しかし、グローバル化に伴い企業でも博士号を重視する様になってきていることを知り、企業就職も視野に入れたいと考えなおしました。本講義を受ける中で企業就職に関する知識を身につけられればと思います。</p>	
<p>研究者として自分の専門だけ目を向うすることだけでなく異分野の先端事業を知る又は融合的な研究を重要だと思えます。キャリアマネジメントセミナーの授業を通して色々な分野は今最先端の研究は何ですか、今後自分の研究研究中どのような融合的な成果を出せるかということを知られる良い経路と思えます。</p>	
<p>私たちを取り巻く状況が感染症から5G、DXと大きく変わっている中で日本の企業にとっても基礎研究分野が産業として認知されることが重要な役割を持つと感じた。特に、主要各国の中で日本が唯一博士取得者数が減っているという現状は知らなかった。企業の種類と分析については非常に勉強となった。気になる企業について従業者数と研究開発比率帯売り上げをプロットし、突出している企業は大きな強みを持っていると思われる。自分はBtoGには携わっているが、Bto B企業は知らない企業が多く、知らないことで選択肢や視野が狭くなることには違和感を感じた。企画書については普段作成することがないため、ノウハウは勉強となった。今後の講義を通して引き続き学んでいきたい。</p>	
<p>医歯学総合研究科では本授業のようにキャリアや企業に関する講義はなかったため受講したが、キャリアプランを検討するうえで、重要な事項が多く知れて非常に参考になった。博士課程に入学してからキャリアプランについて漠然としてしか考えられていなかったため、今後この講義を通し、研究者としてどこでどのように活躍したいか、考えたい。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今自分の置かれている状況を客観的に把握することが今後の日本を生き抜くために必要な力であると感じる。個人的に就活をしたことがないため企業に種類があること、基礎研究が産業化するまでに複数ステップがあること、RからDへ渡るために様々な方法があること等を初めて知った。今後産学連携の研究をする際にも、研究側がこの視点を持っているとより発展性を含むよい研究になると思うので、自分が研究する際にも心掛けたい。</p>	
<p>ご講演ありがとうございました。アカデミアにおける研究と企業における研究には視点の違いがあることが理解できました。また、研究開発投資比率のお話にもあったように、企業は自身が有する資本を様々な分野に分配しており、それによって今力を入れている事業や必要とされている人材が変化することも理解できました。私は歯学部を卒業し、現在は研究を行いながら歯科医師として臨床に従事しております。そのため、こういった企業内部のお話は大学院生として大学で研究をしても、歯科医師として勤務していても聴くことができなかつたと思います。自身の知見を広げる貴重な機会でした。私が現在行っている研究は産学連携研究になりますが、企業側が研究に対して求めていることとこちらが考えていることのギャップを感じることもありましたが、今回の講義で企業側の視点を知ることができたので、今後のディスカッションに活かせると思えました。</p>	
<p>企業というものを一括りにして捉えていたが、その社会的な役割や数字から個々の分析が可能であることを認識できた。自分が現在関わっている企業や今後関わりを望む企業についても企業分析を行うことは、多方面において有意義であるように感じた。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>企業の種類と分類でB2B,B2C,B2Gという分類ができると初めて知りました。こういう視線で企業を分類することによって、研究開発の規模や、研究の目的、需要を確認することができると感じました。また、開示義務のある有価証券報告書というものがあり、各企業のWEB上から検索でき、それを分析することで研究開発費や売上高を知ることができるというのは、今後いくつかの企業と交流や共同研究していく上で、予め企業を知るための有用なツールであると感じました。本日の講義は就職先や研究先を選択する上で、重宝できる知識を得ることができました、ありがとうございました。</p>	
<p>今後企業との研究を模索する者として、最低でも想定する企業を把握する上で、有価証券報告書を参照することは、有用であると感じた。特にどんな研究分野に力を入れているか把握することは必要不可欠であると感じた。また、企画書を作成する上で、読む人の興味を惹きつける作成の仕方を学べて有意義であった。</p>	
<p>リクルートフォーラムの際も聴講させていただきましたが、有価証券報告書や売上高研究開発投資比率の読み取り方など改めて勉強になりました。研究と開発のベクトルの違いなど、フェロシップをしっかりと生かして研究に役立てていきたいと思いました。</p>	
<p>企業における博士人材の需要を踏まえ、世界と比較した日本の博士学位取得者数の現状から、日本の科学技術の未来に危機感を感じた。</p>	
<p>B2BやB2C、B2Gなど日頃知ることができない企業についての専門知識を教えていただいて勉強になりました。また、情報不足の偏った狭い世界で生きていることを再認識しました。キャリアは与えられるものではなく、自ら構築していくものというお話から、世の中の情報やデータを観察、分析する癖をつけていこうと思いました。</p>	

第1回 企業の種類と分析（樋口先生）

学部生：質問／コメント	回答／コメント
<p>限られた時間の中で、内容が盛り沢山であったため、もう少し内容を精査した上で、話すトピックスを決めた方が、分かりやすかった気がします。全体的にボリュームが多く、何を一番強く訴求（アピール）したいのか等が伝わらない可能性もあります。実際は、本人が調べることが大切ですが、セミナーを開催する以上、ポイントを絞った内容がより好まれるのではないかと思います。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。実はこの講義は2コマ分を一つにまとめたもので、言われるように少し盛沢山になってしまいました。また経済学部の方にはかなり常識的な内容も多かったことも冗長さにつながったかもしれません。もともと産業構造や財務知識について知識の薄い理工系の学生を対象に設計していることもあり、概論的に延べ、今後の自身での調査の一助になればと考えています。</p>